

I E A 石油市場レポートの概要（2016年7月13日公表）  
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 世界の原油供給は、5月にO P E C加盟国・非加盟国での供給量が抑制されていた後、6月に60万バレル/日増加し、9,600万バレル/日となった。全世界の生産量は、O P E C非加盟国の減少を加盟国の生産増が部分的に補ったため、昨年より75万バレル/日低くなった。2016年のO P E C非加盟国の生産は、前年から90万バレル/日減少の5,650万バレル/日となり、2017年には20万バレル/日増加する見込み。
2. 欧州の力強い需要が、今年の第2四半期の世界需要（前年比140万バレル/日）の成長を後押ししており、この成長はおおむね年を通じて維持されるだろう。この成長は2017年にわずかながら減速することが見込まれ、130万バレル/日の成長に減少し、年間平均で9,740万バレル/日となるだろう。
3. 原油価格は、6月初めに52ドル/バレルを超えるピークから下がり、45-50ドル/バレルの範囲で取引された。世界経済についての不確実性増加や強いドルが原油価格上昇の重荷となった一方で、米国での生産と在庫の更なる減少が価格下落を制限した。
4. O P E C加盟国の原油生産は、最近再加盟したガボンを含めて、6月に40万バレル/日上昇し、3,321万バレル/日と8年ぶりの高水準となった。サウジアラビアは過去最高に近い1,045万バレル/日まで生産量を増やし、ナイジェリアの生産は反乱軍による攻撃から部分的に回復した。中東の生産国は、記録的水準の生産を維持し、市場シェアを増やし、O P E C加盟国の生産量を1年前から51万バレル/日増加させている。
5. O E C D加盟国の商業在庫は、5月に1,350万バレル積み増され、同月末には記録的な30.74億バレルとなった。暫定的な情報では、O E C D加盟国の6月の在庫は、洋上在庫の増加が続き、さらに90万バレル増加して、2009年以来の最高水準に到達することが見込まれる。
6. 5月の世界の石油精製量は、4月から100万バレル/日程度落ち込み、前年比で150万バレル/日下がった。これは多くの地域で大規模な故障が発生したためである。これにより、今年第2四半期の世界の精製量の予想を7,850万バレル/日に引き下げた（ここ3年で初めての前年比減）。第3四半期の予想はより安定した8,095万バレル/日と予想される。